

学力調査等の状況

国語科では特に、「話すこと」の観点において正答率がとりわけ低い。「読むこと」の観点においても、どの平均正答率と比べて約15%も低く、読解力や表現力の正答率に影響していると考えられる。経年比較で分析すると、言語項目は少しずつ都の平均に近づいている。算数科では、全体的に正答率の低さが見られた。今年度の結果も、都・全国と比較して、どの観点においても平均を下回る結果が出ている。東京都の平均と比べるとすべての項目において、10%以上正答率が下回っている。

見えてきた課題

学習意欲の向上は少しずつ出てきたことが伺える。学習したことが確実に習得できるように、基本的・基礎的な読み書き計算の反復練習を図ったり、自分の考えを整理できる時間を確保したり、指導の工夫が必要である。児童の実態に合わせた指導とともに、問題への取り組み方や学習の仕方の指導を行い、児童自身が自分の学習スタイルを確立できるように支援していく必要がある。「書くこと」の項目の正答率が著しく低いことをふまえ、書く指導を丁寧に行いたい。

授業をデザインする8つの取組について

見通しをもたせる導入	児童の興味関心を高め、考えを引き出すような導入を工夫する。
価値ある対話の共有	児童が意欲的に考えを共有できるような話し合いの場を設定する。
ICT機器の活用	発表や意見交換などの、協同的な学びの場面での活用を目指す。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○モジュールの時間を活用し、漢字指導を中心とした言葉の特徴や使い方に関する言語事項の指導を充実させる。 ○話型を掲示し活用することで、自分の思いや考えを伝え合う力を高める。	○朝学習を活用し、漢字指導や、言葉の意味や使い方の理解を徹底させる。 ○言いたいことがきちんと相手に伝わるように、正しい言葉で話す習慣を身に付けさせる。また、話型も活用しながら、文末まで意識させる。 ○ペア学習などを取り入れ、自分の意見を話す場を多く設定する。 ○話型を掲示し活用することで、	○朝学習の時間を活用し、漢字の習熟を図る。 ○文章の読み取りの技法として、段落→一文→言葉の順に読むことを指導し、文章理解の力を身に付けさせていく。 ○朝読書や図書室を活用する時間、国語の授業などで、意図的に長文を読む時間をとる。 ○自分の考えを文章化する習慣を身に付けさせる。 ○話型を掲示し活用することで、	○漢字小テストや音読の時間を意図的にとることで、文(言葉)の理解と定着を図る。 ○音声言語だけでなく、授業中に自分の考えを書く時間を確実に設定することで、表現する力を身に付けさせる。また、平行して言語の理解力も身に付けさせていく。 ○話し合いや発表の場を増やし、意見を伝える活動を定着させる。
社会科	○「豊かな心の育成」を目指し、効果的な導入や、対話・振り返りの場の設定をして自分の生活に生かそうとする実践的な態度と心情を養う。 ○体験したことを地図や図表に表したり、資料と関連付けて考えたりして、知識と体験を結び付けさせる。 ○個人で調べたことや考えたこと、対話やグループでの話し合い	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○「町探検」を通して、地域への興味や愛着を育てる。場所を示すマーク等に注目させながら、皆が暮らす町についての関心を引き出す。 ○気付いたことを、言葉や絵で表現できるようにする。 ○班で調べたことをまとめたり発表したりする活動を取り入れる。	○町田市や都道府県の位置について体験的な活動を取り入れる。 ○体験した活動を新聞やノート、ジャムボードなどで自分の言葉でまとめる活動を行い、知識の定着を図る。 ○学習したことを振り返り、自身の生活にどのように活かせるか考えさせるよう、終末の指導を行う。	○得た知識を用いて自分の考えを書く力を付けるために、授業中に単元のまとめを書く時間を意図的に設定する。 ○なんのために話し合い活動をするのかを明確にし、対話やグループで課題を解決する回数を増やしていく。 ○Chromebookを活用して、調べたりまとめたりする活動を行う。
算数科	○東京ベータシグナル診断シートを実施し、既習事項の定着度や課題を確認する。それに伴い、定着率が30%以下(6年生は50%以下)の項目や四則計算の技能を、定着率の向上を図る。 ○ドリルソフト「navima」や、デジタル教科書を活用した授業実践を行い、学力の定着を目指したわかりやすい指導を行う。	○数の合成・分解の練習を重点的に行い、数の多様な見方のための素地作りをする。 ○「ただおタイム」を活用し、基礎・基本の習熟を図る。 ○学習ソフト「navima」を活用し、既習の問題の反復練習の時間を確保する。 ○テープ図や絵グラフなど、図や表を使って表す力を身に付けさせる。	○文章題を読み、図に置き換える活動を意図的にとることで、問題を把握する力を身に付けさせる。 ○既習事項の復習する時間を設け、計算力の定着を図る。また、理解度に応じて、応用問題にも積極的に取り組ませる。 ○学習ソフト「navima」を活用し、既習の問題の反復練習の時間を確保する。	○課題解決問題では、自分の考えを説明する場面を多く設定して、学び合い活動を取り入れる。 ○学習ソフト「navima」を活用し、低・中学年での既習問題も反復練習に加え、スパイラルを意識した授業作りをする。 ○問題の理解力を高めるために、文章問題を解く機会を意図的に確保する。
理科	○実験や観察を重視して、それを補う図・写真・動画を有効活用する。 ○教え合い、学び合い、協同的な学びを重視する。 ○実験や観察した結果から、何が分かるかを考えて、まとめる活動を重視する。	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) (中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○自然と触れ合う機会をたくさん作り、児童の発想や発見を生かす時間を取り入れる。 ○気付いたことを、言葉や絵で表現できるようにする。	○仮説、実験・観察、結果、考察を自分の言葉で書き、教科書で学んだこと、自分の体験したことを結びつける時間を意図的に取り入れる。 ○知識の定着を図るために、復習プリントに取り組ませる。	○「実験したこと」「わかったこと」などを実験を振り返りながら、自分でまとめを書く活動を意図的に取り入れる。 ○知識の定着を図るために、復習プリントに取り組ませる。 ○実験の様子を動画撮影して考察するなど、PCを使った活動の工夫を行う。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	○「豊かな心の育成」を目指し、振り返りの場の設定をして自分の生活に生かそうとする心情を養う。 ○児童の気付きを重視し、友達の気付きを共有化できる授業の展開を目指す。 ○活動や体験を通して、友達や自然、地域との関わりをもてる授	○自然と触れ合う機会をたくさん作り、児童の発想や発見を生かす時間を取り入れる。 ○「町探検」を通して、地域への興味や愛着を育てる。場所を示すマーク等に注目させながら、皆が暮らす町についての関心を引き出す。 ○気付いたことを、言葉や絵で		
音楽科	○身体表現を伴った活動を通して拍の流れを感じたり、階名を意識させたりして、音楽表現に必要な基本的な知識が体得できるような指導の工夫をする。 ○それぞれの発達段階における、心情に合った楽曲で、音楽の楽しさを感じながら表現できる	○リズム活動や拍子によって歌ったり演奏したりする活動を通して拍に乗って表現することに慣れ親しませる。 ○身近な打楽器を使っていろいろな音の出し方の工夫をしたり、友達と一緒に音あそびを楽しんだりする意欲を育む。	○リズム活動や階名読みの常時活動を通し、音楽表現に必要な基本的な知識の定着を図る。 ○手合わせや打楽器等、合わせる楽しさを感じられる教材を選び、音楽表現に参加する意欲をもたせる。 ○ペアやグループ活動を多く取	○曲想や表現の工夫の理解のために、身体表現を用いて感じ取る時間を設ける。 ○二部合唱やアンサンブル等、役割を意識して音楽表現に参加する意欲をもたせる。 ○音楽作りや鑑賞では、思いや意図を形にできるよう、ICTを用

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	教材選択をする。	○図形楽譜や色音符を活用し、	り入れ、協同的学習を行う。	いる。
図工科	○発達段階に応じた道具の正しい使い方を身に付ける。 ○作品制作時に鑑賞の時間を取り入れ、発想を広げたり、様々な表現の在り方を感じ取らせる。 ○色の効果や形の面白さなどの視覚的な効果や独創性を生かし、文化や自然とかわる楽しい	○発達段階に応じた、道具の正しい使い方を身に付けさせる。 ○形や色、素材を工夫して楽しい造形活動を行う。 ○友達の作品の良さを見つけ、伝える活動を取り入れ、鑑賞の能力を身に付けさせる。	○発達段階に応じた、道具の正しい使い方や様々な道具や材料を正しく選択する知識を身に付けさせる。 ○作りたいものに合わせて材料を選択し、材料の特徴を生かした造形活動ができる力を伸ばす。	○彫刻刀や電動ノコギリなどの用具の安全な使い方を身に付け、技能の習得につなげる。 ○形や色などから視覚的な効果や独創性を活かし、社会や自然と関わる造形活動ができるようにする。 ○発想を広げたり、様々な表現
家庭科	○日常的な実践につながるような授業展開や学習カード等の工夫をする。 ○自分や友達の意見を認め、学び合える場の設定をする。 ○用具の安全な使い方や技能の習得に必要な時間を十分に確保する。調理実習では、計画段階や実習の時に掲示物等を			○製作物や献立の計画を実際に行うなど、日常的な実践につながる活動を取り入れる。 ○裁縫や調理などの実習技術を身に付けさせるために、実習時間の確保や学び合いの場の設定をする。 ○実際に用具を使うことで、安全な使い方や技能を習得させる。
体育科	○できる技を組み合わせたり、できそうな技に挑戦させることで、できた喜びを味わわせる。 ○目的や目標に向かって、みんなで技能や体力が高まる方法やチームにおける作戦について探求する。 ○主体的・対話的で深い学びを行えるように、友達の技を見たり、技能のポイントを聞いたりする場面を多く取り入れる。	○基本の運動を通して、多様な動きを経験させ、体の動かし方をつかませる。 ○一人ひとりが楽しみながら、チームの仲間と協力してゲームができる意欲を養う。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるように、児童への啓発を継続する。	○ゲームや協同的な学びを通して、運動の仕組みや作戦を伝え合い、思考力や技能を高める。 ○一人ひとりの課題に気付かせ、その課題を解決させていくことで、体力の向上につなげる。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるように、児童への啓発を継続する。	○ゲームや協同的な学びを通して、運動の仕組みや作戦を伝え合い、思考力や技能を高める。 ○できる技を組み合わせたり、できそうな技に挑戦させたりすることで、できた喜びを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ力を育てる。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるように、児童への啓発を継続する。
外国語科	○ALTや友達とのコミュニケーション活動の時間を十分に確保する。 ○ALTの発問、「CROWN Jr」やCD、絵本教材などを活用して、たくさん英語に触れたり、話したりする活動を取り入れる。			○ALTや友達との外国語でのコミュニケーション活動やスピーチの活動を取り入れ、コミュニケーション能力を身に付ける。 ○簡単な文章で自分の事や聞きたいことを表すことができるように、話す・書く活動の時間を確保する。 ○さまざまな国の文化や習慣を学び、日本との違いや共通点に気付く、それぞれの国の良さを認めることができる力を養う。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	○教科学習の発展的な活動や地域の歴史や文化、体験活動から学ぶ活動、学年の発達段階に応じた活動の中で、人や地域、自然との関わりの中から、自ら課題を見つけ、解決していく能力を育成する。 ○Chromebookやその他の情報機器等を活用して、幅広く課題解決や発表ができる力を育てる。		○栽培・飼育活動(蚕)等、身近な地域の自然環境を学習の場とし、ものづくり等の生産活動から、調べ学習や発表へとつなげ、課題解決に必要な技能を身に付ける。 ○Chromebookを活用し、情報を収集・整理して、伝えたり発表したりする情報処理能力を育む。また、情報機器の取り扱いにあたって、リテラシー教育を行う。	○地域や社会に関心をもたせ、自ら設定した課題の解決方法を考え、調べ学習を行う。 ○Chromebookを活用し、情報を収集・整理して、伝えたり発表したりする情報処理能力を育む。また、情報機器の取り扱いにあたって、リテラシー教育を行う。 ○プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う。
特別の教科 道徳	○全教育活動を通して、道徳教育を行うとともに、道徳授業で補充、深化、統合して道徳的価値の自覚を深める。特に、規範意識や公共心を高め、人権や命の大切さを考えさせることで互いを認め合い、行動できる道徳的実践力を育んでいく。道徳的課題を自己の問題として捉えた上で、課題と向き合う「考え、議論する道徳」の授業づくりを目指す。	○身近な題材を扱うことで、自分の行動を振り返ったり、相手の気持ちを考えられるような心情を身に付けさせる。 ○役割演技などを取り入れ、登場人物の気持ちをより実感することができるよう指導の工夫を行う。	○日常生活の中の課題を取り入れ、対話や考える時間を確保したりすることで、日常生活の中で生かすことのできる規範意識や公共心を高める。 ○人と人とのつながりの中で互いの良さや違いを認め合い、相手の立場に立って考え、行動できる実践力を育む。	○人と人とのつながりの中で互いの良さや違いを認め合い、相手の立場に立って考え、行動できる実践力を育む。 ○SNSに関する題材も扱い、情報モラルと人権の大切さについて学習し、友達を思いやる道徳的実践力を高める。
特別活動	○学級や学校における生活上の諸問題を解決したり、役割を自覚しながら協力し合ったりすることを通して、多様な集団生活の向上を図る生活づくりの参画を図る。 ○集団生活に主体的に関わり、社会の一員として役割を果たす意識を理解させるとともに、主体的な学習態度を養わせる。	○学級活動を通して、学校における生活上の問題を解決する話し合い活動を行い、話し合いを通して合意形成するよさを理解させる。 ○基本的な生活習慣や、約束や決まりを守ることの大切さを実感し、生活を良くするために目標を決めて行動できる実践力を養う。 ○縦割り班活動を通して、他学年との関わりを深める。	○学級活動を通して、他者に理由を明確にしなが考えを伝えたり、異なる意見も受け入れたりしながら集団生活ができる力を育む。 ○係活動やクラブ活動(4年)等を通して、自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動し、節度ある生活を送ることができる実践力を養う。 ○縦割り班活動を通して、他学年との関わりを深める。	○学級活動を通して、多様な意見のよさを積極的に活かし、考えて行動ができる力を身に付ける。 ○クラブや委員会活動を通して、目標を持って粘り強く努力したり、自他のよさを伸ばし合うことができる環境を整える。 ○縦割り班活動を通して、他学年との関わりを深める。
外国語活動・英語活動	○ALTを活用し、コミュニケーションを重視した活動の中で、外国語を使って積極的にコミュニケーションを図る力を育てる。 ○歌、チャンツゲームを通して、外国語に慣れ親しめるような授業づくりを目指す。 ○さまざまな国の生活・習慣・行事などを扱うことで、日本との共通点や相違点に気付かせる。	○歌やチャンツを取り入れ、楽しく外国語活動に親しむ。 ○大型絵本の読み聞かせなど、ALTとの時間を確保する。	○ゲームや動作化など、多様なアクティビティを体験することを通して、外国語に慣れ親しむことのできる学習を行う。 ○ALTや友達との外国語でのコミュニケーション活動を楽しむ。 ○ローマ字の学習を行い、アルファベット表記の定着を図る。	

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

